



東北大学グローバルCOE

Network Medicine

創生拠点

NM高等教育セミナー

尾池 雄一 博士

(熊本大学大学院生命科学研究部・教授)

生活習慣病とがんの共通分子病態 ～慢性炎症の観点から考える～

2013年1月11日(金) 17時-18時30分
医学部1号館2階第1セミナー室

近年、運動不足や肥満に起因し感染を伴わない“慢性炎症”が、健康長寿を阻害する様々な病態形成に寄与することが解明され注目を集めている。生体内の様々なストレスへの応答や加齢に伴う組織の損傷への修復応答などの恒常性維持機構において、実質細胞と多種の細胞から構成される間質細胞との相互作用が重要な役割を担っている。しかし、その応答機構の変容により恒常性維持機構の破綻が生じ、その結果組織における燻ったような低レベルの“慢性炎症”が、組織リモデリング、臓器の機能不全をもたらし、健康長寿を阻害する様々な疾患発症の大きな要因となっている。このことは、65歳以上の人口が4人に1人という超高齢化時代を迎えつつある本邦において“慢性炎症”の鍵となる分子を同定することが様々な生活習慣病やがんの病態の分子メカニズムを解明し、新規治療戦略を考えるうえで重要であることを示唆している。本講演では、我々が同定した“慢性炎症”の鍵因子の1つであるアンジオポエチン様因子2(Angptl2)の観点から生活習慣病とがんの分子病態についてご紹介したい。

本セミナーは医学履修課程特別セミナー等を兼ねています。受講学生は履修簿を持参し、セミナー修了後にサインを受けること。聴講は自由大歓迎です。学部生の皆さんもぜひどうぞ。

拠点リーダー 岡 芳知 / 世話人 山本 雅之(医化学分野)
問い合わせ先: 内線8089

※本セミナーは、新学術領域「転写代謝システム」共催です。